

資料 地域教育力ネットワーク協議会の活動事例

【事例1】通学合宿

1. 事業の概要

金目地区では、平成15年度から金目小学校及びみずほ小学校に通う4～6年生の児童を対象に、通学合宿を実施している。

子ども達は、2泊3日金目公民館に泊まって共同生活をしながら学校に通う。家族から離れ、異なる年齢の人達と集団生活し「生きる力」を養うとともに、地域ぐるみで子どもを守り育てる「地域の教育力」を高めるのが狙いで行われている。

2. 平成25年度の実施内容等

日時 平成25年11月10日(日)～11月12日(火)の2泊3日

場所 金目公民館

主催 金目中学校区地域教育力ネットワーク協議会

協力 平塚市教育委員会、金目公民館、平塚友の会

参加者 金目小学校・みずほ小学校4～6年生 計40人

【平成25年度日程】

事前準備

6月	実行委員会＝日程調整等
9月	実行委員会＝内容検討等
10月	実行委員会＝協力者関係特定・依頼等
10月	親子説明会
11月中旬	実施
11月下旬	反省会・お別れパーティ

実施日当日

1日目

11月10日(日)	13:00	入館式
	13:15	オリエンテーション
	13:30	みんな友達(ゲーム、スポーツ)
	15:10	金目を知ろう(金目の自然について)
	16:15	買出し、夕食準備/自主活動
	19:00	夕食・懇談
	19:40	夕食片付け
	20:00	※もらい湯
	22:00	就寝・消灯

2日目

11月11日(月)	6:00	起床
	6:30	朝食準備/館内外清掃
	7:00	朝食
	8:00	集団登校 学校
	15:45	下校後、自由学習、おやつ

16:15 買出し、夕食準備／自主活動
 19:00 夕食・懇談
 19:40 夕食片付け
 20:00 ※もらい湯
 22:00 就寝・消灯

3日目

11月12日(火)

6:00 起床
 6:30 朝食準備／館内外清掃
 7:00 朝食
 8:00 集団登校
 学校
 15:45 下校後、自由学習、おやつ
 17:30 夕食・片付け
 19:00 解散

※もらい湯 金目地区の協力を得て、1軒あたり小学生2～3人程が大人の送迎の上で、お風呂に入らせてもらいに行き、その家の方とふれあいながら地域の絆を深める。



3. 事業の分析（平成25年度地域教育力ネットワーク協議会事業計画内訳書より抜粋）

事業名	通学合宿				
目的	公民館から小学校に通うという2泊3日の生活体験をすることで、小学生の社会性、自主性、協調性を伸ばし、生きる力や思いやりの心を育てる機会とする。				
世代間交流事業 [世代の異なる人が相互に交流する事業]	誰と誰が交流しますか。	<input type="checkbox"/> 小学生未満 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> 大人（65歳未満） <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者（65歳以上） 学校や学年の違う友達、地域の様々な団体の人達と一緒に集団生活をする。また、地域の家庭にもらい湯に行き、交流を深める。			
	この交流が今後どう繋がっていくと思われませんか。	子ども達と地域との結びつきを深め、地域全体が子ども達を育て、守るという意識が強まる。			
社会体験事業 [実際の生活や社会、自然に触れる体験事業]	子どもたちが自然や社会の現実にとどのように触れますか。	公民館に泊まり、小学校に通う2泊3日の集団生活の中で、普段は家族に頼りがちな食事作り、掃除といった基本的な生活にかかわることを自分でする。			
	この実際の体験が今後どう活かされると思いますか。	家族と離れ、集団生活をする中で自主性や協調性を高め、心豊かでたくましく生きる力を養う。食事や掃除など基本的な生活にかかわることを自分ですることによって、家族のありがたさ、大切さに気付く。			
ボランティア体験事業 [地域や社会のために役立つ奉仕活動体験事業]	誰がどのようなボランティア体験をしますか。	中学生がボランティアとして、参加小学生とゲームをしたり、世話をしたりする。			
	この体験が今後どう活かされたいと思いますか。	小学生の時は、参加する側だった児童が、中学生になって運営側にボランティアとして協力し、地域の行事に積極的に参加する。			
参加人数 (25年度実績数)	小学生	中学生 (内ボランティア数)	一般	運営スタッフ (内ネット会員)	合計
	40人	13人 (13人)	人	64人 (19人)	117人
子どもたちの主体性を育むために、事業のどの時点でどのように関わっているか記入してください。	<input checked="" type="checkbox"/> 事前会議 <input checked="" type="checkbox"/> 準備 <input checked="" type="checkbox"/> 当日 <input checked="" type="checkbox"/> ふり返り				
	小学生は、公民館に泊まって学校に通うという2泊3日の集団生活の中で、自主性や協調性を高め、心豊かでたくましく生きる力を養う。また、食事作り、掃除といった基本的な生活にかかわる。中学生は運営側にボランティアとして協力することで、参加小学生とゲームをしたり、世話をしたりすることで、地域の行事に積極的に参加する。				

【事例2】港地区のカルタ大会

1. 事業の概要

港地区では、港小学校の児童を対象に、『郷土いろはカルタ大会』を実施している。平成26年1月の開催で35回目となる。

大会は学年別にグループに分かれ、トーナメント方式で行う。子ども達はこの日のためにルールやマナーを学び練習を積んだ上で大会に挑む。毎年、港小在籍児童数の半数以上に及ぶ児童が参加し、地域の大人が裏方として運営にあたる。読み手にはボランティアとして、太洋中学校の生徒が協力した。

使用する『港地区・郷土いろはカルタ』は、昭和56年に港地区青少年を守る会を中心に作成された。読み札の文句は大勢の人々から寄せられたものから選ばれた。絵は当時の港小学校の児童達の手によって描かれ、その札に地域の婦人たちが和紙を貼るなどした手づくりで、須賀の歴史や風土、独特の文化が盛り込まれたものである。

2. 平成25年度の実施内容等

日時 平成26年1月19日（日）

場所 港小学校体育館

主催 港地区青少年を守る会

参加者 港小学校4～6年生 計272人

【平成25年度日程】

事前準備

- 12月～1月 事前練習・指導（4回程度）
- 12月～ 中学生ボランティア説明、自宅練習
- 1月初旬 実行委員説明会
- 1月中旬 （大会前日）会場準備、追加説明会、中学生練習

実施日当日

- 1月19日（日） 8：00 役員集合
- 8：20 受付開始
- 8：50 開会式
- 9：20 試合開始
- 12：30 試合終了、表彰式・閉会式
- 13：00 片付け、清掃、児童生徒は下校（引率あり）
- 13：30 反省会
- 14：30 解散



3. 事業の分析（平成25年度地域教育カネ트워크協議会事業計画内訳書より抜粋）

事業名	第35回 郷土いろはカルタ大会				
目的	世代間の交流や、子ども達が郷土愛を育み、礼儀作法の自然習得。 中学生ボランティアは、自分が小学生の時に選手として参加した経験を生かし地域指導者への第一歩となる。				
世代間交流事業 [世代の異なる人が相互に交流する事業]	誰と誰が交流しますか。	<input type="checkbox"/> 小学生未満 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> 大人（65歳未満） <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者（65歳以上） 参加児童は、大会前には、子ども会を中心にして各町内で練習を数回行い、地域の大人達から競技だけではなく、ルールや礼儀作法も教わる。大会当日は、実行委員や多くの地区内青少年関係団体の方々と顔を合わせ、接点を深める。			
	この交流が今後どう繋がっていくと思われませんか。	子ども達が地域の大人達の顔を知り、ルールや礼儀作法などを教わることで、地域全体が子ども達を育てる、守るという意識が醸成される。			
社会体験事業 [実際の生活や社会、自然に触れる体験事業]	子どもたちが自然や社会の現実にとどのように触れますか。	自分達の住む地域の身近な自然や歴史、文化を題材にしたカルタによって、郷土を知る機会や郷土愛を育むことにつながる。競技だけではなく、ルールや礼儀作法を地域の大人達から学ぶ。			
	この実際の体験が今後どう活かされると思いませんか。	カルタを通じて培われる、郷土愛やルールを重んじる姿勢、礼儀作法は、子ども達が成長して実社会に出てからも役立つものである。			
ボランティア体験事業 [地域や社会のために役立つ奉仕活動体験事業]	誰がどのようなボランティア体験をしますか。	中学生が、大会前の会議から大会当日の受付や読み手、審判のボランティアとして協力する。			
	この体験が今後どう活かされると思いませんか。	小学生の時は参加する側だった児童が、中学生になって大会の運営側にボランティアとして協力することで、地域の行事に積極的に参加することや地域の伝統を守っていく意識を持つことができる。			
参加人数 (25年度実績数)	小学生	中学生 (内ボランティア数)	一般	運営スタッフ (内ネット会員)	合計
	272人	30人 (30人)	400人	90人 (70人)	792人
子どもたちの主体性を育むために、事業のどの時点でどのように関わっているか記入してください。	<input checked="" type="checkbox"/> 事前会議 <input checked="" type="checkbox"/> 準備 <input checked="" type="checkbox"/> 当日 <input type="checkbox"/> ふり返り				
	事前練習で、カルタ札の説明をし、内容について疑問を質問してもらい、大人が説明と共に答える。当日のゴザ配置はホワイトボードに掲示し、試合前に見させ自分の位置を確認させる。 中学生ボランティアには、1カ月前に読み札を書いた物を渡し、自宅練習をしてもらう。当日の会場整理は、前日に内容を記載した物を渡し、自分達で役割分担を決めてもらう。				

【事例3】中学生ボランティア派遣事業

1. 事業の概要

大野地区では、平成22年度から中学生が地域の事業にボランティアとして主体的に参加できるように中学生ボランティア派遣事業を実施している。

ボランティア受け入れ窓口を大野中学校区教育力ネットワーク協議会に一本化することで、中学校も安心して生徒に地域のボランティアを紹介することができる。中学生が、地域社会へ主体的に参加することを通じて、様々な世代と交流し、色々な体験を積み重ね、働く喜び、役立つ喜びやコミュニケーション能力を養うことができる。

2. 平成25年度の実施内容等

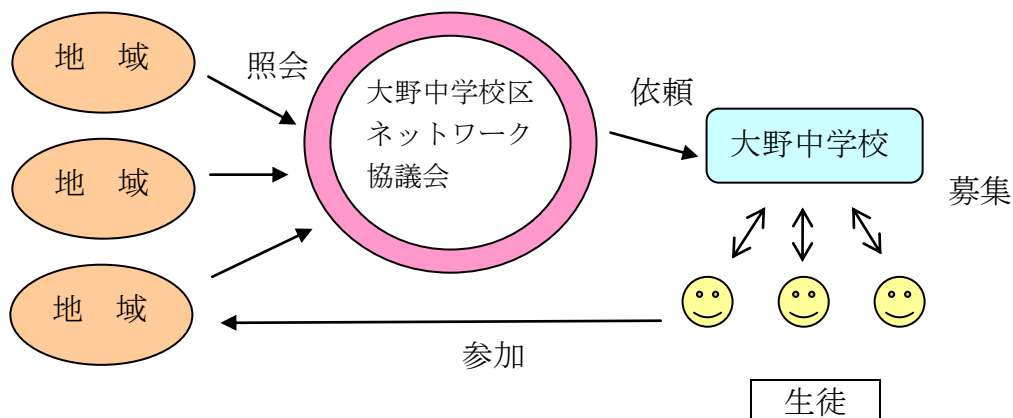
期間 通年。ただし、授業時間や学校事業、テスト期間及び原則テスト前1週間を除く。

主催 大野中学校区教育力ネットワーク協議会

参加者 大野中学校生徒

- 方法
- (1) 地域の事業に中学生ボランティアの派遣を希望する団体は、「受け入れ計画書」に必要事項を記入し、大野中ネットの運営会議に提出する。
 - (2) 大野中学校は、「受け入れ計画書」に基づき、生徒へ募集をかける。
 - (3) 生徒は、ボランティアとして参加したい事業に申し込みをする。
 - (4) 大野中学校は、「参加者名簿」を作成して団体へ報告する。
 - (5) 受け入れ団体は、「参加者名簿」の生徒に連絡し、ボランティアに必要な事項を伝える。
 - (6) 受け入れ団体は、事業終了後、「参加者名簿」に出欠等を記入して中学校へ報告する。

イメージ図



3. 事業の分析（平成25年度地域教育力ネットワーク協議会事業計画内訳書より抜粋）

事業名	中学生ボランティア派遣事業				
目的	中学生達が、地域社会へ主体的に参加することを通じて、様々な世代と交流し、色々な体験を積み重ねることで、「生きる力」を育むと共に、地域における教育力のネットワークづくりを推進する。				
世代間交流事業 [世代の異なる人が相互に交流する事業]	誰と誰が交流しますか。	<input type="checkbox"/> 小学生未満 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> 大人（65歳未満） <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者（65歳以上） 地域のイベントや行事に運営側として参加する中学生と地域の大人達とが交流する。			
	この交流が今後どう繋がっていくと思われませんか。	地域のイベントや行事に運営側として参加する中学生と地域の大人達とが交流する。			
社会体験事業 [実際の生活や社会、自然に触れる体験事業]	子どもたちが自然や社会の現実にとどのように触れますか。	地域の様々な行事やイベントに運営する側として参加する。			
	この実際の体験が今後どう活かされると思いますか。	多くの人と関わりながら地域の行事やイベントを作り上げていくことで、社会の仕組みを知り、他者との共同作業を営む社会性を育む。			
ボランティア体験事業 [地域や社会のために役立つ奉仕活動体験事業]	誰がどのようなボランティア体験をしますか。	地域からの要請を受けて、中学生からボランティアを募り、盆踊りやドッジボール大会の練習など地域の行事やイベントのスタッフとして活動する。			
	この体験が今後どう活かされたいと思いますか。	地域でのボランティア体験を通じて、自分が大切な存在であり、社会の一員であることを実感し、思いやりの心や規範意識を育むことができる。			
参加人数 (25年度見込数)	小学生	中学生 (内ボランティア数)	一般	運営スタッフ (内ネット会員)	合計
	人	14人 (人)	人	人 (人)	人
子どもたちの主体性を育むために、事業のどの時点でどのように関わっているか記入してください。	<input type="checkbox"/> 事前会議 <input checked="" type="checkbox"/> 準備 <input type="checkbox"/> 当日 <input type="checkbox"/> ふり回り				
	地域からの受け入れ計画書に基づき、生徒達が自主的な判断によって参加を表明する。				

【事例4】マイタウンスクール

1. 事業の概要

横内地区では、平成14年度から横内小・中学校の児童・生徒を対象に、横内マイタウンスクールを開講している。

週末に児童・生徒（登録制）が様々な体験学習をしている。自分の可能性、集中できることを子ども達自身が探し、生きる力を身につけるための“学びの場”となっている。様々な資格、経験をお持ちの地域の方々が「サポーター」になって、協力しあいながら自主的に運営し、週末の子どもたちの居場所を提供している。

■「横内マイタウンスクール」とは？

様々な体験学習を通じ、自分の可能性、集中できることを子ども達自身が探し生きる力を身につけるための“学びの場”である。また、地域の人達が「サポーター」になって、協力しあいながら子ども達と一緒に学ぶサークル形式のスクールである。

■ 運営体制は？

様々な資格、経験をお持ちの地域の方々が、ボランティア「サポーター」として自主的に運営に携わっている。保護者も、子どもたちの生きる力を育み、見守る「サポーター」となっている。

■ 設立は？

平成14年4月。

小・中学校が週5日制になった年に、週末の子供達の居場所づくりのためにスタート。

■ サークル活動内容は？

スポーツ系、文化系のサークル 約10種類。

2. 平成25年度の実施内容等

日時 第1・第3土曜日

場所 横内小学校、横内中学校、横内公民館他

主催 横内子どもサポートネットワーク協議会

参加者 横内小学校及び中学校の児童・生徒 80人

【平成25年度日程】

- ・陸上・・・4回/月。真土大塚山公園で活動。
- ・ハイキング・・・2回/年。5月、11月に実施。
- ・ジュニアバンド・・・1回～数回/月。地区の色々な行事で演奏。
- ・和太鼓・・・1回/月。湘南和太鼓“絆”のメンバーとの演奏も行う。
- ・囲碁、将棋・・・2回/月。
- ・茶の湯・・・1回/月。
- ・フラワー教室・・・2回/年。
- ・芸術文化子ども体験事業・・・全12回
12月、1月、2月に実施。
琴・華道・マジックを体験。
稽古を積んだ成果を横内公民館まつりで発表。



3. 事業の分析（平成25年度地域教育力ネットワーク協議会事業計画内訳書より抜粋）

事業名	マイタウンスクールの開催				
目的	中学生を対象に、文化系、スポーツ系のサークル活動を通じ、交流を深める。				
世代間交流事業 [世代の異なる人が相互に交流する事業]	誰と誰が交流しますか。	<input type="checkbox"/> 小学生未満 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> 大人（65歳未満） <input type="checkbox"/> 高齢者（65歳以上） 小学生、中学生が地域指導者や高齢者（福祉施設入所者）等、挨拶、会話の中から幅広い世代とのふれあいを深める。			
	この交流が今後どう繋がっていくと思われませんか。	子どもの頃に習った技術を大人になった際、地域の子どもに今度は教える立場で参加していただくことが期待される。			
社会体験事業 [実際の生活や社会、自然に触れる体験事業]	子どもたちが自然や社会の現実にとどのように触れますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上では各種大会参加を通じルール、自主性を学ぶ ・ハイキングでは身近な自然の豊かさ、環境の大切さを学ぶ ・ジュニアバンド、和太鼓では地域の祭り、福祉施設でのふれあい演奏を通じ、いたわりの心を学ぶ ・囲碁将棋、茶の湯では伝統、文化を守る心、礼儀を学ぶ ・フラワーアレンジメントではものづくりを学ぶ 			
	この実際の体験が今後どう活かされると思いますか。	学校、家庭以外での自分の可能性を発見する機会づくりになるとともに、行事でのルールを知ることから我慢すること、自律性を身につけた社会人に成長していけることに役立つと考える。			
ボランティア体験事業 [地域や社会のために役立つ奉仕活動体験事業]	誰がどのようなボランティア体験をしますか。	中学生は、引率、指導のサポート役のボランティアとして参加する。			
	この体験が今後どう活かされたいと思いますか。	子ども達は、講師がボランティアであることによって、子ども達もボランティア活動に興味を持つことが期待される。			
参加人数 (25年度見込数)	小学生	中学生 (内ボランティア数)	一般	運営スタッフ (内ネット会員)	合計
	80人	10人 ()人	20人	20人 ()人	130人
子どもたちの主体性を育むために、事業のどの時点でどのように関わっているか記入してください。	<input type="checkbox"/> 事前会議 <input type="checkbox"/> 準備 <input checked="" type="checkbox"/> 当日 <input type="checkbox"/> ふり返り				
	マイタウンスクールのサークルに自主的に興味をもった子ども達が参加するため、個人の技術の向上等、期待が持てる。				

【事例5】防災キャンプ

1. 事業の概要

崇善地区では、平成15年度から崇善小学校の児童を対象に、防災キャンプを実施している。

子ども達は災害体験学習を通じて、防災に関する知識を身につける。大人達が地域の子ども達の顔を知り、災害時の体育館での共同生活や津波避難訓練などにより、地域全体で子ども達を育てる、守るという意識が醸成される。

災害体験学習として起震車による地震体験、消防ポンプ車の放水体験、はしご車の乗車などを体験する。夕食は、非常食を食べ、段ボールハウスを作成し体育館に宿泊。翌朝は、津波シュミレーションDVD鑑賞の後、校舎屋上に上がり避難訓練をする。

2. 平成25年度の実施内容等

日時 平成25年9月28日(土)～9月29日(日)の1泊2日

場所 崇善小学校

共催 父の会、江陽地域教育力ネットワーク協議会、崇善小学校、PTA

参加者 崇善小学校の児童 計41人

【平成25年度日程】

1日目

9月28日(土)	13:00	開会式
	13:15	防災体験学習(放水車、起震車、給水車など)
	16:00	防災イベント「平塚防災まちづくりの会」
	17:30	夕食(豚汁、非常食用ご飯)
	18:30	段ボールハウス作成
	20:00	片付け、解散(日帰りの部)／宿泊準備
	21:00	就寝

2日目

9月29日(日)	6:45	起床、ラジオ体操
	7:15	朝食(パン、牛乳)
	8:00	防災体験学習(津波DVD、屋上見学)
	9:00	片付け、解散



3. 事業の分析（平成25年度地域教育力ネットワーク協議会事業計画内訳書より抜粋）

事業名	防災キャンプ				
目的	災害体験学習を通じて、防災に関する知識を身につける。				
世代間交流事業 [世代の異なる人が相互に交流する事業]	誰と誰が交流しますか。	<input checked="" type="checkbox"/> 小学生未満 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> 大人（65歳未満） <input type="checkbox"/> 高齢者（65歳以上）			
	この交流が今後どう繋がっていくと思われませんか。	幼児・小学生・中学生、保護者及び協力団体（ひらつか防災まちづくりの会、父の会OB） 大人達が地域の子ども達の顔を知り、災害時の体育館での共同生活や津波避難訓練などにより、地域全体で子ども達を育てる、守るという意識が醸成された。			
社会体験事業 [実際の生活や社会、自然に触れる体験事業]	子どもたちが自然や社会の現実にとどのように触れますか。	昼間は、災害体験学習として消防ポンプ車の放水、はしご車の乗車や起震車による地震の体験などをする。夕食は、非常食を食べ、段ボールハウスを作成し、体育館に宿泊。朝は校舎屋上に上がり避難訓練をする。			
	この実際の体験が今後どう活かされると思いませんか。	色々な災害時の体験や知識を身につけることにより、冷静な対応や判断ができる。			
ボランティア体験事業 [地域や社会のために役立つ奉仕活動体験事業]	誰がどのようなボランティア体験をしますか。	江陽中学校生徒が参加者受付、昼食の配膳、防災体験学習での各班の引率等を体験した。			
	この体験が今後どう活かされたいと思いませんか。	地域の様々な人とのふれあいによって働く喜びや役立つ喜びを感じ、今後も積極的にボランティアに参加してくれる。			
参加人数 (25年度実績数)	小学生	中学生 (内ボランティア数)	一般	運営スタッフ (内ネット会員)	合計
	33人	2人 (2人)	30人	43人 (14人)	108人
子どもたちの主体性を育むために、事業のどの時点でどのように関わっているか記入してください。	<input checked="" type="checkbox"/> 事前会議 <input checked="" type="checkbox"/> 準備 <input checked="" type="checkbox"/> 当日 <input type="checkbox"/> ふり返り				
	事前会議に参加、当日の役割や担当について確認。 防災体験学習での子ども達の役割を検討。(高学年の児童に班長をしてもらう) 子ども達が好きなように段ボールハウスを作成。災害時に何が役立つか、自ら考えることができる。				